



生物多様性は復興に どんな役割を果たしたか

東日本大震災からのグリーン復興

中静 透・河田 雅圭・今井 麻希子・岸上 祐子 編



地域の自然や生態系、生物多様性を活かした復興は可能
なはずである。

しかし、甚大な被害を前に「生物多様性」に耳を傾ける
人がいるのか。恐る恐る被災地に入った生態学者と
仲間たちが現場で出会ったのは…。各地の経験から「海
と田んぼからのグリーン復興」の可能性を探る。東日
本大震災の報告にとどまらず、その後起きた様々な
自然災害からの復興や、地域の持続可能性に関係する
さまざまな示唆を含んでいる書である。

四六判 224頁 価格 2,300円 + 税
ISBN 978-4-8122-1734-4

目次

- 序 生物多様性は復興に必要である
- I 山と海のつながりが町を復活させる
—南三陸町のチャレンジ
- II 松島湾のめぐみが復興を支える
—浦戸諸島の自然に生きる
- III グリーン復興の可能性を探る
- IV 防潮堤は必要なのか
- むすび 生物多様性や生態系は復興に
どんな役割を果たしたか

フィールドから考える
地球の未来
—地域と研究者の対話
関野樹 監修



人は火山に何を
見るのか
—環境と記憶／歴史
寺田匡宏 著



五感／五環
—文化が生まれるとき
阿部健一 監修



生物多様性
子どもたちにどう伝えるか
阿部健一 編



食と農の未来
—ユーラシア一万年の旅
佐藤洋一郎 著



ポスト石油時代の
人づくり・モノづくり
—日本と産油国の未来像を求めて
石山俊・縄田浩志 編



食と農の
サバイバル戦略
—リスク管理からの再生
嘉田良平 著



水と人の未来可能性
—しのびよる水危機
総合地球環境学研究所 編



モノの越境と地球環境問題
—グローバル化時代の〈知産知造〉
窪田順平 編



安定同位体というメカネ
—人と環境のつながりを診る
和田英太郎・神松幸弘 編



魚附林の地球環境学
—親潮・オホーツク海を育むアムール川
白岩孝行 著



生物多様性どう生かすか
—保全・利用・分配を考える
山村則男 編



森はだれのものか？
—アジアの森と人の未来
日高敏隆・秋道智彌 編



黄河断流
—中国巨大河川をめぐる水と環境問題
福島義宏 著



地球の処方箋
—環境問題の根源に迫る
総合地球環境学研究所 編



食卓から地球環境がみえる
—食と農の持続可能性
湯本貴和 編



地球温暖化と農業
—地域の食料生産はどうなるのか？
渡邊紹裕 編



*地球研は総合地球環境学研究所の略称で、
2001年、京都に創設されました。大学共
同利用機関法人・人間文化研究機構の一機関
として、地球環境問題を人と自然の関係とい
う根本からとらえて研究しています。この叢
書は地球研の研究成果をわかりやすく紹介す
るものです。

生物多様性は
なぜ大切か？
なぜ必要か？
なぜ大切か？
なぜ必要か？
日高敏隆 編



中国の環境政策 生態移民
—緑の大地、内モンゴルの砂漠化を防げるか？
小長谷有紀・シンジルト・中尾正義 編



シルクロードの水と緑は
どこへ消えたか？
日高敏隆・中尾正義 編



フィールドから考える地球の未来——地域と研究者の対話

関野 樹 監修

目次	第I部 資源
	第II部 社会システム
	第III部 歴史と文化
	第IV部 災害と復興
	終章 アーカイブ時代に何が大切か——東京都内・情報学の現場を歩く
	三人で歩くことの意味——あとがきにかえて

四六判 上製 288頁 ISBN 978-4-8122-1551-7 本体2,500円+税

人は火山に何を見るのか——環境と記憶／歴史

寺田 匡宏 著

目次	エクスキュル、アガンベン、アンソロポシオン——少し長めのまえがき
	第1章 地震のあとのドキュメント
	第2章 homo narrans 人は語る
	第3章 森のなかで、都市のなかで、夢のなかで、記憶する
	第4章 まだ見ぬ環境の(新しい字)へ
	読むことの共同体——あとがきにかえて

四六判 上製 198頁 ISBN 978-4-8122-1508-1 本体2,500円+税

五感／五環——文化が生まれるとき

阿部 健一 監修

目次	はじめに (阿部健一)
	第I部 視覚 人の目でとらえることのできる世界／環境はどこまで広がっているのだろうか
	第II部 聴覚 耳を澄ませば、聞こえてくる音。人の感情、時間や季節の変化、目の前のことだけでなく
	第III部 触覚 頬は通り過ぎる風を知り、足の裏は川底の石にくすぐられ、つないだ手は温かい
	第IV部 味覚 ある研究者が言った「食べたものは忘れない」。これほど素直に自然環境や文化を記憶に刻むもの
	第V部 嗅覚 ふとした瞬間に嗅いだおいで、人は季節を感じ、危険を感じ取り、また胸を焦がす
	第VI部 第六感 感情、記憶、カミさま……。世界は不思議なことに、そこに「存在」するものと
	あとがき (秋道智彌)

四六判 上製 215頁 ISBN978-4-8122-1506-7 本体2,500円+税

食と農のサバイバル戦略——リスク管理からの再生

嘉田良平 著

目次	第1章 なぜ食のリスクが拡大してきたのか
	第2章 地球環境問題と食料安全保障のゆくえ
	第3章 東南アジアにおける生態リスクの拡大と食の安全・安心
	第4章 震災復興と日本農業の進路
	第5章 里山の再生と持続可能な地域づくり
	第6章 食のリスクと環境のつながりを問う
	終章 食と農のサバイバル戦略とは

四六判 160頁 ISBN 978-4-81-221405-3 価格 2,100円+税

ポスト石油時代の人づくり・モノづくり——日本と産油国の未来像を求めて

石山俊・縄田浩志 編

目次	序章 地球環境問題の処方箋はできるのか (石山俊)
	第1章 石油文明の頂点から考える——何を失ってきたのか、何を残していくのか (縄田浩志)
	第2章 エネルギー危機を前に、現代人類の危機をどう考えるか (嶋田義仁)
	第3章 オアシスの伝統的生活から学ぶ未来 (藤木恵子)
	第4章 産油国での人づくり、日本での人づくり (大沼洋康)
	第5章 田舎暮らしからエネルギー問題を考える (石山俊)
	第6章 木質バイオマスの新時代 (中西昭雄)
	終章 石油なしでも「未来可能性」のある生き方 (縄田浩志)

四六判・上製 256頁 ISBN978-4-8122-1258-5 本体2,300円+税

食と農の未来——ユーラシア一万年の旅

佐藤洋一郎 著

目次	第1章 人類はいつも飢えていた——食とは何か
	第2章 ユーラシアの人びとは何を食べてきたのか——食の粹組み
	第3章 人類は環境を食いつぶすつもりなのか——食と地球環境問題
	第4章 農業はいつ始まったのか——食の生産の歴史
	第5章 農業が環境を破壊するとき——農業生産の持続性
	第6章 食の倫理を問う——食と農の未来

四六判・上製 260頁 ISBN978-4-8122-1176-2 本体2,300円+税

生物多様性 子どもたちにどう伝えるか

阿部健一 編

目次	第1章 生物多様性の伝え方——科学と文化 (阿部健一)
	第2章 生物多様性はどう接していますか (辻野亮)
	第3章 生物多様性を受け入れる生き方、考え方とは (神松幸弘)
	第4章 生きものの個体を追跡してみると…… (依田憲)
	第5章 子どもたちの幸せのために、里山をとおして何を伝えるか (夏原由博)
	【コラム】子どもたちから遠くなった自然 (今西亜由美)
	第6章 森の実践から学ぶ生物多様性の保全 (横山智)

四六判 上製 216頁 ISBN978-4-8122-1119-9 本体2,200円+税

魚附林の地球環境学——親潮・オホーツク海を育むアムール川

白岩孝行 著

目次	1章 豊穡の海
	2章 鉄不足にあえぐ海
	3章 国際チームをつくる
	4章 フィールドワークを取り巻くさまざまな問題
	5章 ひとつの仮説
	6章 大気から来る鉄は重要か
	7章 アムールリマンの謎
	8章 鉄を生み出す湿原
	9章 アムール川流域の土地利用変化とその背景
	10章 数値モデルが語る鉄の未来
	11章 魚附林と巨大魚附林
	12章 アムール・オホーツクコンソーシアムの設立へ
	13章 平和環境圏構築と大学からの挑戦

四六判 上製 カラー2頁+240頁 ISBN987-4-8122-1118-2 本体2,300円+税

生物多様性 どう生かすか——保全・利用・分配を考える

山村則男 編

目次	はじめに (山村則男)
	第1章 生物多様性とは何か——暮らしに生きる自然 (岡安直比)
	第2章 生物多様性条約とは何か——科学と政治のあいだ (香坂玲)
	第3章 生物多様性は生かされているか——食卓から考える (佐藤洋一郎)
	第4章 生物多様性は生かされてきたか——持続的利用と破壊の歴史 (湯本貞和)
	第5章 生物多様性を守るために——遺伝資源利用による利益の衡平で公正な配分 (大沼あゆみ)

四六判 上製 192頁 ISBN978-4-8122-1145-8 本体2,200円+税

安定同位体というメガネ——人と環境のつながりを診る

和田英太郎・神松幸弘 編

目次	序章 安定同位体って何? (神松幸弘)
	第1章 生き物同士のつながりを診る——アミノ酸の窒素同位体比を用いて (大河内直彦他)
	第2章 気候と社会の歴史を診る——樹木年輪の酸素同位体比からの解読 (中塚武)
	第3章 地球環境のトレーサビリティー (中野孝教)
	第4章 環境診断学の誕生 (和田英太郎)

四六判 上製 180頁 ISBN978-4-8122-1017-8 本体2,200円+税

モノの越境と地球環境問題——グローバル化時代の〈知産知消〉

窪田順平 編

四六判 上製 224頁 ISBN978-4-8122-0933-2 本体2,300円+税

水と人の未来可能性——しのびよる水危機

総合地球環境学研究所 編

四六判 上製 196頁 ISBN978-4-8122-0922-6 本体2,300円+税

地球温暖化と農業——地域の食料生産はどうなるのか?

渡邊紹裕 編

四六判 上製 カラー4頁+240頁 ISBN978-4-8122-0829-8 本体2,300円+税

食卓から地球環境がみえる——食と農の持続可能性

湯本貞和 編

四六判 上製 168頁 ISBN978-4-8122-0813-7 本体2,200円+税

地球の処方箋——環境問題の根源に迫る

総合地球環境学研究所 編

四六判 上製 224頁 ISBN978-4-8122-0816-8 本体2,300円+税

黄河断流——中国巨大河川をめぐる水と環境問題

福嶋義宏 著

四六判 上製 カラー4頁+202頁 ISBN978-4-8122-0775-8 本体2,300円+税

森はだれのものか?——アジアの森と人の未来

日高敏隆・秋道智彌 編

四六判 上製 カラー4頁+200頁 ISBN978-4-8122-0708-6 本体2,300円+税

シルクロードの水と緑はどこへ消えたか?

日高敏隆・中尾正義 編

四六判 上製 カラー4頁+212頁 ISBN978-4-8122-0625-6 本体2,400円+税

中国の環境政策 生態移民——緑の大地、内モンゴルの砂漠化を防げるか?

小長谷有紀・シンジルト・中尾正義 編

四六判 上製 328頁 ISBN978-4-8122-0523-5 本体2,800円+税

生物多様性はなぜ大切か?

日高敏隆 編

四六判 上製 192頁 ISBN978-4-8122-0506-8 本体2,300円+税

図書出版 昭和堂

〒606-8224 京都市左京区北白川京大農学部前
TEL 075-706-8838 (営業) FAX 075-706-8878
http://www.showado-kyoto.jp/

表示は本体価格(税別)です。
お申し込みはお近くの書店様へお願いいたします。